



2022年6月2日発行 第3号

コミッショナー通信

発行 ボーイスカウト東京連盟 県コミッショナー 村山 大介

梅雨空が気になる季節となりました。新年度を迎え早いもので2ヶ月が経過しました。毎朝、大きなランドセルを背負った身体のまだ小さな小学校1年生が楽しそうに通う姿、また、大きめの新しい制服に身を包んだ中高生を見かけます。少しずつではありますがその姿が様になってきたように思います。

コミッショナー通信第2号の発行からかなり間が空いてしまいました。申し訳ありません。

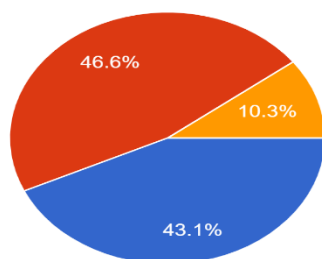
今号ではコミッショナー通信第2号で実施した、ビーバーノート、カブブックの取り組みについてのアンケート結果をご紹介します。

「ビーバーノート、カブブックのご家庭での取り組みについて」アンケートのまとめ

コミッショナー通信第2号（2021年12月13日発行）で、ビーバースカウト、カブスカウトの保護者のみなさま、過去にビーバースカウト、カブスカウトにお子さまが参加していた保護者のみなさまにアンケートにご協力いただきました。58名の保護者のみなさまにご協力いただきました。ありがとうございました。アンケートでは8つの質問をさせていただきました。保護者のみなさまからの回答結果についてをご紹介します。

質問1 お子さんは現在、どちらの隊に所属されていますか？

58件の回答



- ビーバースカウト隊
- カブスカウト隊
- 過去にビーバースカウト隊もしくはカブスカウト隊に所属していた

ビーバースカウトの保護者 43.1%

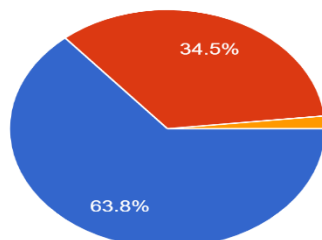
カブスカウトの保護者 46.6%

過去にビーバースカウト隊もしくはカブスカウト隊に所属されていたお子さまを持つ保護者 10.3%

ご協力ありがとうございました。

質問2 ご家庭でビーバーノートやカブブックに取り組んでいますか？（取り組んでいましたか？）

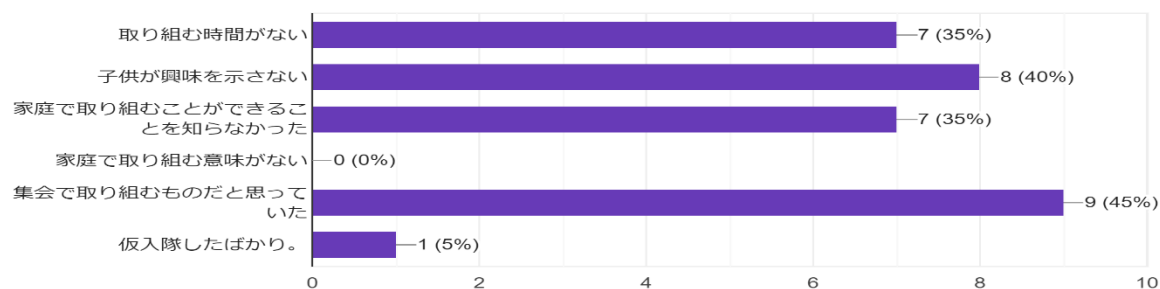
58件の回答



- 家庭でビーバーノートやカブブックに取り組んでいる（取り組んでいた）
- 家庭ではビーバーノートやカブブックに取り組んでいない → 質問3へ
- ビーバーノートやカブブックの存在を知らない

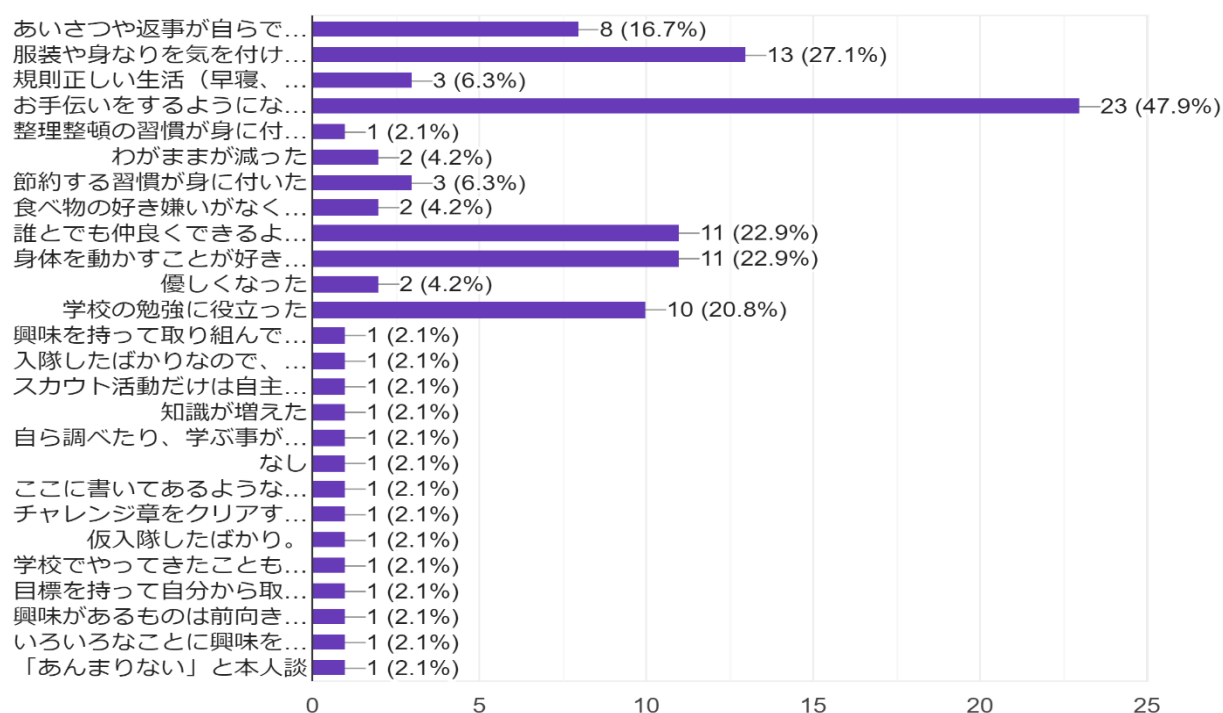
「ご家庭でビーバーノートやカブブックに取り組んでいる（取り組んでいた）」（63.8%）、その反面「取り組んでいない」（34.5%）という結果でした。また、「ビーバーノートやカブブックの存在を知らない」（1.7%）という回答もあり、ビーバーやカブの活動の要となるビーバーノート、カブブックの存在を知らないという回答はたいへん残念に思います。

質問3 質問2で「家庭ではビーバーノートやカブブックに取り組んでいない」と回答された方へ、どのような理由ですか？（複数回答可）20件の回答



質問2でビーバーノートやカブブックに取り組んでいない回答理由として、集会で取り組むものだと思っていた45%、家庭で取り組むことができることを知らなかった35%ということで、ビーバーノートやカブブックの家庭での取り組みについて指導者からの説明が不足していたことが考えられます。今後、保護者のみなさまに対し、丁寧に説明をすることで、保護者と指導者とが連携し、スカウト活動がスカウトの成長により貢献できると思います。子供が興味を示さないという回答が40%ありました。ビーバーノート、カブブックの取り組みとバッジシステムの活用を工夫することで、スカウトの興味や関心を高められるようにできればと考えます。

質問4 ビーバーノートやカブブックに取り組むことで役立ったことはどんなことですか？（複数回答可）48件の回答



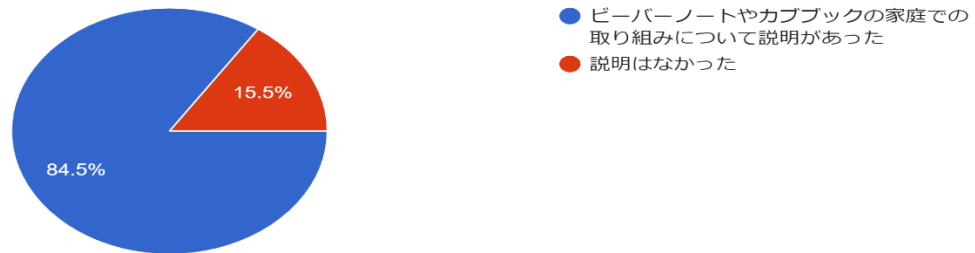
「ビーバーノートやカブブックに取り組むことにより役立ったことはどんなことですか？」という問いに対し、「お手伝いをするようになった」（47.9%）、「服装や身なりに気を付けるようになった」（27.1%）、「誰とでも仲良くできるようになった」「身体を動かすことが好きになった」（22.9%）という回答が得られています。

ビーバーノートやカブブックは家庭で取り組める内容、家庭でしか取り組めない内容があります。このあたりをしっかりと説明、理解していただくことにより、取り組み方が変わってくるのではないのでしょうか。「お手伝い」という行動は、子供の成長を感じると思います。保護者の方々がしっかりとお子さんを見て、成長を感じることができると、さらにスカウト活動への関心も高まるのではないのでしょうか。

月ごとに家庭での取り組みを設定したりすること、取り組むきっかけになると思います。

質問5 ビーバーノートやカブブックのご家庭での取り組みについて、隊指導者から説明はありましたか？

58件の回答

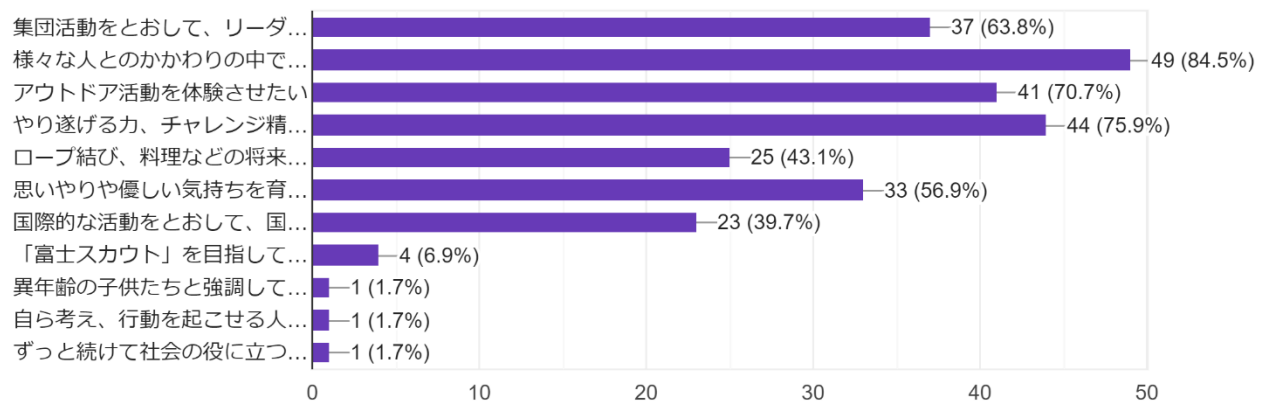


「ビーバーノートやカブブックのご家庭での取り組みについて、隊指導者から説明はありましたか？」という質問に対して、「説明があった」（84.5%）、「説明がなかった」（15.5%）という回答でした。

保護者の方々は、配布物（ビーバーノート、カブブック）は読んでいるだろう、これらの配布物については理解しているだろうという指導者側の憶測、説明はしているけれども十分に伝わらず、理解が不足していることも考えられます。ボーイスカウト運動の導入期と位置付けられるビーバー部門、カブ部門です。家庭、保護者との連携は欠かせません。より丁寧な対応が必要です。

質問6 今後、ボーイスカウトの活動に期待することはどんなことですか？（複数回答可）

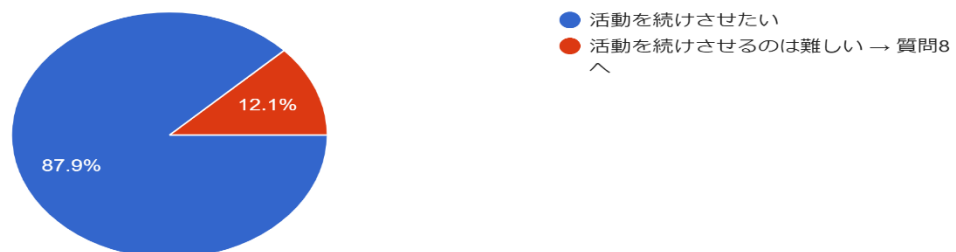
58件の回答



「様々な人とかかわりの中で社会性を身に付けさせたい」（84.5%）、「やり遂げる力、チャレンジ精神を身に付けさせたい」（75.9%）、「アウトドア活動を体験させたい」（70.7%）、これらの回答が上位3点です。「社会性」とは、挨拶、ルールを守る、他の人の話を聞く、自分の考えや思いを相手に伝えるなどの社会の中で生きるためのスキルを指します。保護者の方々はボーイスカウトの活動、教育方法によって、様々な力を身に付けてほしいと期待しています。

質問7 保護者として今後もボーイスカウトの活動を続けさせたいですか？

58件の回答

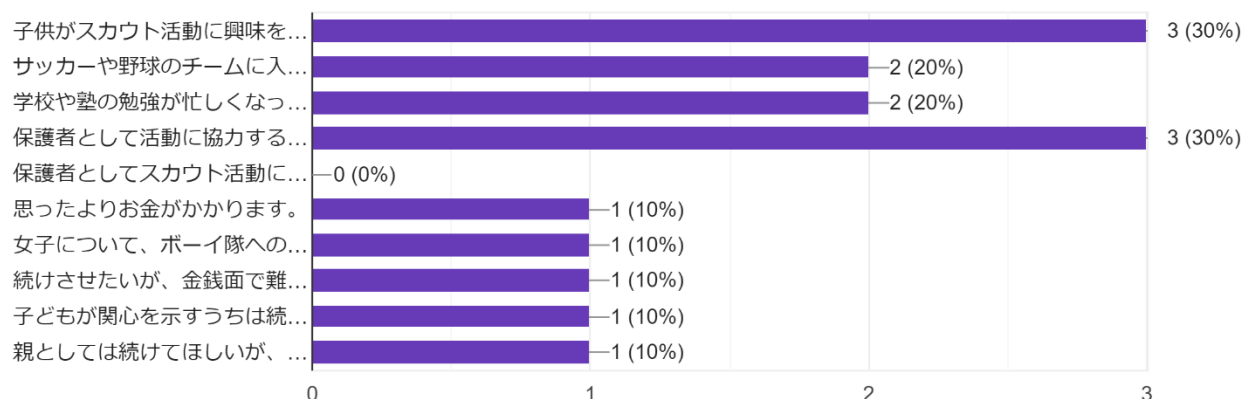


87.9%の保護者が「活動を続けさせたい」と回答しています。

残念ながら12.1%の保護者は「活動を続けさせるのは難しい」と回答しています。活動を続けることが難しい理由は次の質問で回答をいただいています。

ボーイスカウトには一貫した教育システムがあります。ビーバー、カブ、ボーイ、ベンチャー、ローバーという部門の活動を経て、完成されるものと考えます。活動の継続ができない理由を把握し、一人でも多くのスカウトが活動を継続していくためには、指導者としてどのような支援ができるかを考え、実践することが大切です。

質問8 質問7で「活動を続けさせるのは難しい」と回答された方へ、その理由は？（複数回答可）
10件の回答



質問7で「活動を続けさせるのは難しい」と回答した保護者にその理由を質問したところ、「子供がスカウト活動に興味を示さなくなってきた」「保護者として活動に協力するのが難しい」、また、スポーツチームの参加、習い事が忙しいなどが回答の上位を占めました。

「興味を示さなくなってきた」という回答については、スカウト活動の楽しさ、魅力が提供できていない、伝えきれていないことが残念に思います。また、「保護者として協力するのが難しい」「時間の縛り」が活動の継続を困難にさせているのであれば、保護者の活動に対する協力のあり方について検討したり、スカウト自身が活動に必要な時間を柔軟に設定するなどして活動に参加しやすくする工夫の検討が必要だと思います。

〇まとめ

今回のアンケート調査をとおして、様々な状況や指導者としての反省点、今後の課題などがわかりました。

〇指導者として...

- ・ビーバーノートやカブブックに取り組む意義を深く理解し、保護者の方々に説明し、理解を得ることが大切。
- ・スカウト活動と家庭、学校などでの日常生活場面との関連を探り、どのような場面で課目に取り組めるのかを示すことで、生活の中にスカウト活動が位置付けられるようにする。
- ・保護者の方々とコミュニケーションを密にとることで、スカウトの成長を共有する。

また、富士スカウトは特別なスカウトではなく、スカウト活動を続け、様々な課題に取り組み、経験を重ね、成長した証であること。ビーバースカウトやカブスカウトにとって夢ではないことを伝える。

〇今後の課題

- ・スカウト活動の導入期であるビーバー部門、カブ部門の指導について研究し、指導者の指導力を向上させる。一貫した教育システムという視点に立ち、他の部門を担当する指導者も進歩制度、小グループ活動について、理解を深めることが大切。
- ・特に進歩制度の取り組みについては、ビーバー部門からローバー部門までの一貫した教育システムの中で取り組まれることが、スカウトの成長につながり、スカウト活動の目的が達成されることについて理解を促す。
- ・進歩制度については、集会活動の中だけで取り組むのではなく、家庭、学校、その他の生活場面でも取り組めることを説明し、スカウト技能、スカウト精神が日常生活の中で一体化しきるよう啓発に取り組む。



1970年代のカブブック



1990年代のカブブック

ウッドバッジ研修所スカウトコース、団委員研修所が開設されました

4月29日（金）から5月2日（月）までウッドバッジ研修所スカウトコース東京第22期（鈴木武所長、28名修了）、5月4日（水）から5月7日（土）までウッドバッジ研修所スカウトコース東京第23期（美濃嶋宏成所長、19名修了）が両コースとも東京連盟日向野営場（千葉県山武市）で開設されました。一方、団委員研修所東京第35期（鈴木健之所長、 名修了）が5月3日（火）から5月5日（木）まで国立オリンピック記念青少年センターで開設されました。

ウッドバッジ研修所は参加者がボーイスカウト指導者としての責務を果たすことができるように、スカウト教育に関する基本的な内容を習得することを目的としています。

「行うことによって学ぶ」を実践するため、野外生活（キャンプ）で食事は自炊です。



中央の建物は「山武閣」です。この山武閣の中でセッションやグループ作業を行います。また、床には炉がありキャンプファイアーもできます。

ウッドバッジ研修所の生活はキャンプが基本です。班を編成し、キャンプサイトの配置を話し合っ

て決め、協力し合っ

て作業を進めます。班長、次長、炊事係、用具係など班の中で役割を分担し、協力しながら、一人一人が責任をもって仕事に取り組むことを全期間をと

おして体験します。研修所の生活すべてがスカウト教育法の実践につながります。研修所のこれらの実体験で学んだことは、今後のスカウトの指導に役立ちます。

参加者のみなさま、所員のみなさま、お疲れさまでした。



日向野営場には自然に囲まれた野営場です。

指導者訓練や研修以外でも、班や隊のキャンプで利用することができます。

中央広場に現れたカエルです。



新型コロナウイルスへの対応について

5月22日（日）をもってリバウンド防止期間が終了しました。日々の新型コロナウイルス感染者は減少傾向にあるものの、新たな変異株が出現するなど予断を許さない状況でもあります。夏に向けて本格的な活動を始める時期でもあります。

これまでの新しい生活様式に基づく感染防止、感染拡大予防対策を徹底しながら安全・安心なスカウト活動の展開にご協力をお願いいたします。

マスクの着用については熱中症を予防する点から、屋外で活動するときなどは人との適切な距離が保てること、活動の内容によりマスクは外すなどの対応をお願いします。室内で活動するときも感染防止策を徹底しながら、定期的にマスクを外して新鮮な空気を吸うなどの対応をお願いいたします。